

長井市における国民年金行政の分析と 大学生の視点から年金広報の在り方の提言

前司 美南

本卒業論文は、山形県長井市における国民年金行政を分析対象とし、年金広報の特徴点等をまとめた上に、近隣自治体との年金広報戦略の違いについて分析し、最終的に、大学生の視点から年金広報の在り方の提言を論じている。

筆者が所属する阿部公一ゼミでは、大学生の視点から年金広報について考え、若年層向けの年金教育の映像教材等を作成してきた。このような研究教育活動を通じて、年金制度を若い世代に向けて情報発信していくことの重要性を学び、国民年金に関する広報活動に興味を持つようになった。このような関心の発端から、筆者の出身地である山形県長井市ではどのような年金広報業務を行っているのかに関して興味を抱き、長井市における国民年金の広報の在り方を考えたいと思い、本論題の設定に至った。

市町村が行う年金事務は、主に第一号法定受託事務と協力連携事務があり、年金制度の広報事務等の実施を行うのが、協力連携事務である。長井市の医療・年金係では、法定受託事務で定められた事務に沿って業務を遂行しており、市報等に掲載する年金広報については、連携協力事務のもと、国から委託された内容に沿った広報内容となっている。長井市で行っている主な広報は、市報にて国民年金制度に関する記事を掲載することと、コミュニティ FM 放送にて国民年金制度の説明を行うことなどがある。市報の広報内容は近隣自治体とほとんど変わらないが、とりわけ、FM 放送による広報の手段に工夫が見られた。

以上の分析を踏まえ、筆者は、自治体において年金広報に力を入れていくべきではないかと感じ、特にこれからの日本を支える若い世代でも情報を受け取れるような工夫を行っていくべきであるということを提言した。具体的には、自治体が運営している SNS で年金に関する広報を行うことである。多くの若い世代が活用している SNS 上で国民年金に関する広報を行うことで、より多くの世代の市民に情報を伝えることが可能になるのではないだろうかという戦略に至った。なお、具体的な個々の情報発信の内容に関しては、今後、長井市職員として取り組んでいきたい。